

1. プログラム名称
仙台徳洲会病院 総合診療専門研修プログラム
2. 専攻医定員
原則 1 学年あたり 2 名とするが、増員を希望する場合はプログラム申請書 A の別紙 5 に理由と共に定員希望数を記載すること。
3. プログラムの期間
(3) 年間
4. 概要
<p>A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長</p> <p>仙台市は人口 100 万人を超える東北随一の大都市となっており、平成元年には政令指定都市へ移行しました。仙台徳洲会病院のある泉区は、仙台市の北部に位置しております。泉区および隣接する黒川郡を合わせて 30 万人を超える地域の基幹病院として急性期医療を中心とし、宮城県内でも有数の救急車受け入れ病院となっております。2015 年 8 月には、仙台市内で最も救急車を受け入れた実績もあり、その後も平均 500 件前後の救急車を受け入れ、地域医療再生に貢献しております。</p> <p>また、介護老人保健施設を併設しており、在宅復帰をサポートする体制も整っております。</p> <p>アクセス：地下鉄東西線 仙台駅から泉中央駅まで 15 分、泉中央駅から病院まで徒歩 7 分と非常に便利です。</p> <p>連携群の中で、その地方の地域医療維持に貢献しており、継続して医療支援を行うことが可能となっております。</p>
<p>B. プログラムの理念、全体的な研修目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修を修了した医師や他科からの転向を志す医師に対して、総合的な臨床能力を持つ医師を目指す。 ・幅広い医療活動を通じて患者中心に動き、患者の痛み・悲しみ・苦しみを理解できる医師を育成。 ・患者や患者の家族の持つ問題点を身体的・精神的・社会的な背景も含めて理解し、改善へ導く方法を学び、実践できる研修を目指す。
<p>C. 研修期間を通じて行われる勉強会・カンファレンス等の教育機会</p> <p>(例) 定期的な TV 会議システムによるカンファレンス・経験省察研修録 (ポートフォリオ) 勉強会や作成指導等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単科もしくは他科を含めた合同カンファレンス、CPC、医療倫理・感染対策に関する講習会 ・グループ内の合同勉強会 ・グループ主催および外部の勉強会への参加 等

D. ローテーションのスケジュールと期間

(4年以上のプログラムの場合は、枠を増やして4年目以降のローテーションについても記載すること)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	施設名	仙台徳洲会病院											
	領域	内科											
2年目	施設名	仙台徳洲会病院						岸和田徳洲会病院			札幌徳洲会病院		
	領域	総診Ⅱ						救急科			小児科		
3年目	施設名	与論徳洲会病院						山川病院					
	領域	総診Ⅰ						総診Ⅰ					

特記事項 ()

※ 代表的な例を書いてください。募集定員全員のローテーション表は不要です。

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ (12)カ月		総合診療専門研修Ⅱ (6)カ月	
領域別 研修	内科 (12)カ月	小児科 (3)カ月	救急科 (3)カ月	その他 (0)カ月

※ローテーションする施設によって研修期間が異なる場合(例えば、総合診療専門研修ⅠがA診療所なら6ヶ月、B診療所なら9ヶ月など)、これらの表はコピー&ペーストして複数作成してください。

※「総診Ⅰ」、「総診Ⅱ」、「内科」、「小児科」、「救急」、「その他」という表記で記入してください。

※整備基準にある「平成30年度からの3年間に専門研修が開始されるプログラムについては、専門研修施設群の構成についての例外を日本専門医機構において諸事情を考慮して認めることがある。」との規定を踏まえ、3年間の研修プログラムにおいても、最大6か月間の選択研修が認められます。ただし、その場合でも、各研修科の研修期間の要件を満たすことが必要です。

※「総診Ⅰ」と「総診Ⅱ」を同時に研修することはできません。また、原則として異なる医療機関での研修を実施する必要があります。

※原則として、都道府県の定めるへき地に専門研修基幹施設が所在するプログラム、あるいは研修期間中に2年以上のへき地での研修を必須にしているプログラムにおいて、ブロック制で実施できない合理的な理由がある場合に限り、小児科・救急科の研修をカリキュラム制で実施することが認められます。該当する場合は、特記事項に詳細を記入してください。

5. 準備が必要な研修項目	
地域での健康増進活動	
実施予定場所 (病院内・病院外 (集会所・公民館・ホール 等)))
実施予定の活動 (地域住民への医療講演))
実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか)
(基幹施設での研修中は複数回実施予定))
教育 (学生、研修医、専門職に対するもの)	
実施予定場所 (病院内外において年 2 回以上))
実施予定の活動 (医学生や研修医に対する医学教育の実践・実習に対応する。各種レクチャーに参加する機会を設けさせる。症例発表を通じてカンファレンスを実行し、多角的な視野で物事を検討する。))
実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか)
(基幹施設でのローテート時に参加できる機会を作る。))
研究	
実施予定場所 (関連学会及びブロック支部地方会))
実施予定の活動 (最先端の医学・医療を理解すること及び科学的思考法を体得することが、医師としての幅を広げるため重要であると考え、専攻医は原則として学術活動に携わる必要があり、学術大会等での発表及び論文発表を行う。))
実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか)
(各年次において開催時期は要確認))
6. 専攻医の評価方法 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))	
※形成的評価と総括的评价を研修終了認定の方法も含めて具体的に記入してください。	
形成的評価	
■研修手帳の記録及び定期的な指導医との振り返りセッションを定期的実施する (頻度: 四半期 1 回))
■経験省察研修録 (ポートフォリオ) 作成の支援を通じた指導を行う (頻度: ローテーションごと))
■作成した経験省察研修録 (ポートフォリオ) の発表会を行う (頻度: 年に数回程度 参加者の範囲: 委員会構成員及び随時対象者))
■実際の業務に基づいた評価 (Workplace-based assessment) を定期的実施する (頻度: ローテーションごと))
■多職種による 360 度評価を各ローテーション終了時等、適宜実施する)
■年に複数回、他の専攻医との間で相互評価セッションを実施する)
■ローテート研修における生活面も含めた各種サポートや学習の一貫性を担保するために専攻医にメンターを配置し定期的に支援するメンタリングシステムを構築する)
■メンタリングセッションは数ヶ月に一度程度を保証する)
総括的评价	
■総合診療専門研修 I・II の研修終了時には、研修手帳に専攻医が記載した経験目標に対する自己評価の確認と到達度に対する評価を総合診療専門研修指導医が実施する。)
■内科ローテート研修において、症例登録・評価のため、内科領域で運用する専攻医登録評価システム (Web 版研修手帳) による登録と評価を行う。研修終了時には病歴要約評価を含め、技術・技能評価、専攻医の全体評価結果を内科指導医が確認し、総合診療プログラムの統括責任者に報告する。)
■3ヶ月の小児科の研修終了時には、小児科の研修内容に関連した評価を小児科の指導医が実施する)
■3ヶ月の救急科の研修終了時には、救急科の研修内容に関連した評価を救急科の指導医が実施する)
■以下の基準でプログラム統括責任者はプログラム全体の修了評価を実施する)
(1) 研修期間を満了し、かつ認定された研修施設で総合診療専門研修 I および II 各 6 ヶ月以上・合計 18 ヶ月以上、内科研修 12 ヶ月以上、小児科研修 3 ヶ月以上、救急科研修 3 ヶ月以上を行っており、それぞれの指導医から修了に足る評価が得られている)
(2) 専攻医自身による自己評価と省察の記録、作成した経験省察研修録 (ポートフォリオ) を通じて、到達目標がカリキュラムに定められた基準に到達している)
(3) 研修手帳に記録された経験目標が全てカリキュラムに定められた基準に到達している)
なお、研修期間中複数回実施される、医師・看護師・事務員等の多職種による 360 度評価 (コミュニケーション、	

チームワーク、公益に資する職業規範)の結果も重視する

研修修了認定の方法 (総括的評価結果の判断の仕方・修了認定に関わるメンバー)

修了判定会議のメンバー

■研修プログラム管理委員会と同一

□その他 ()

修了判定会議の時期 (専門医認定申請年の5月末まで)

7. プログラムの質の向上・維持の方法

研修プログラム管理委員会

委員会の開催場所 (仙台徳洲会病院)

委員会の開催時期 (毎年5月、9月、12月)

専攻医からの個々の指導医に対する評価

評価の時期 (各ローテーション終了時等)

評価の頻度 (適宜実施)

評価結果の利用法 (指導体制の見直し)

研修プログラムに対する評価

評価の時期 (必要に応じて)

評価の頻度 (年に1回)

評価結果の利用法 (プログラムの質の向上・維持)

8. 専門研修施設群

基幹施設の施設要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))

■総合診療専門研修Ⅰの施設基準を満たしている。

■総合診療専門研修Ⅱの施設基準を満たしている。

■大学病院で研修全体の統括組織としての役割を果たしている、あるいは適切な病院群を形成している施設である。

研修施設群全体の要件。

■総合診療専門研修Ⅰとして、のべ外来患者数 400名以上/月、のべ訪問診療件数 20件以上/月である。

■総合診療専門研修Ⅱとして、のべ外来患者数 200名/月以上、入院患者総数 20名以上/月である。

■小児科研修として、のべ外来患者数 400名以上/月である。

■救急科研修として、救急による搬送等の件数が1000件以上/年である。

地域医療・地域連携への対応

■へき地・離島、被災地、医療資源の乏しい地域での研修が1年以上である。

具体的に記載：

施設名 (与論徳洲会病院) 市町村名 (与論町) 研修科目 (総合診療Ⅰ) 研修期間 (6か月)

施設名 (山川病院) 市町村名 (指宿市) 研修科目 (総合診療Ⅰ) 研修期間 (6か月)

施設名 () 市町村名 () 研修科目 () 研修期間 (か月)

□基幹施設がへき地※に所在している。

□へき地※での研修期間が2年以上である。

具体的に記載：

施設名 () 市町村名 () 研修科目 () 研修期間 (か月)

施設名 () 市町村名 () 研修科目 () 研修期間 (か月)

施設名 () 市町村名 () 研修科目 () 研修期間 (か月)

※過疎地域自立推進特別措置法に定める過疎地域。詳細は総務省ホームページ参照

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm

http://www.soumu.go.jp/main_content/000456268.pdf

9. 基幹施設			
研修施設名	医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院		
所在地	住所 〒981-3131 宮城県仙台市泉区七北田字駕籠沢 15 電話 022-372-1110 FAX 022-372-1499 E-mail maeno@sendai.tokushukai.or.jp		
プログラム統括責任者氏名	佐野 憲	指導医登録番号	
プログラム統括責任者 部署・役職	医局・院長		
事務担当者氏名	前野 明菜		
連絡担当者連絡先	住所 〒981-3131 宮城県仙台市泉区七北田字駕籠沢 15 電話 022-372-1110 FAX 022-372-1499 E-mail maeno@sendai.tokushukai.or.jp		
基幹施設のカテゴリー	<input type="checkbox"/> 総合診療専門研修Ⅰの施設 <input checked="" type="checkbox"/> 総合診療専門研修Ⅱの施設 <input type="checkbox"/> 大学病院		
基幹施設の所在地	二次医療圏名 (仙台) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ		
施設要件 (各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
<ul style="list-style-type: none"> ■総合診療以外の 18 基本診療領域の基幹施設機能を、本プログラム統括責任者が所属する診療科あるいは部門では担当していない (プログラム基幹施設の役割を診療科・部門が兼任していない) ■本プログラム以外の総合診療専門研修プログラムを本基幹施設は運営していない ■プログラム統括責任者が常勤で勤務し、コーディネーターとしての役目を十分果たせるように時間的・経済的な配慮が十分なされている ■専門研修施設群内での研修情報等の共有が円滑に行われる環境 (例えば TV 会議システム等) が整備されている ■プログラム運営を支援する事務の体制が整備されている ■研修に必要な図書や雑誌、インターネット環境が整備されている <ul style="list-style-type: none"> ※研修用の図書冊数 (213 冊 (国内外を問わず)) ※研修用の雑誌冊数 (36 冊 (国内外を問わず)) ※専攻医が利用できる文献検索や二次資料の名称 (医中誌、Up to Date) ※インターネット環境 <ul style="list-style-type: none"> ■LAN 接続のある端末 ■ワイヤレス ■自施設で臨床研究を実施したり、大学等の研究機関と連携した研究ネットワークに加わったりするなど研究活動が活発に行われている 			
具体例 (学術大会または論文発表を行う)			

10. 連携施設	
連携施設名	医療法人沖縄徳洲会 与論徳洲会病院
所在地	住所 〒891-9301 鹿児島県大島郡与論町茶花 403-1 電話 0997-97-2511 FAX 0997-97-2711 E-mail soumu@yorontokushukai.jp
連携施設担当者氏名	仲田 三喜男
連携施設担当者 部署・役職	総務課・係長
事務担当者氏名	仲田 三喜男
連絡担当者連絡先	住所 〒891-9301 鹿児島県大島郡与論町茶花 403-1 電話 0997-97-2511 FAX 0997-97-2711 E-mail soumu@yorontokushukai.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (奄美) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である

	→ <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
--	---

※連携施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして列挙すること

10. 連携施設	
連携施設名	社会医療法人鹿児島愛心会 山川病院
所在地	住所 〒890-0515 鹿児島県指宿市山川小川 1571 電話 0993-35-3800 FAX 0993-35-2510 E-mail y-hpsoumu@nills.jp
連携施設担当者氏名	上野 謙介
連携施設担当者 部署・役職	事務長
事務担当者氏名	尾ノ上 博明
連絡担当者連絡先	住所 〒890-0515 鹿児島県指宿市山川小川 1571 電話 0993-35-3800 FAX 0993-35-2510 E-mail kensuke-ueno@koutokukai.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (南薩) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

※連携施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして列挙すること

10. 連携施設	
連携施設名	医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院
所在地	住所 〒004-0041 北海道札幌市厚別区大谷地東1丁目1-1 電話 011-890-1110 FAX 011-896-2202 E-mail dr-edu-satutoku@tokushukai.jp
連携施設担当者氏名	佐藤 和生
連携施設担当者 部署・役職	整形外科外傷センター・医長
事務担当者氏名	中條 秀樹
連絡担当者連絡先	住所 〒004-0041 北海道札幌市厚別区大谷地東1丁目1-1 電話 011-890-1110 FAX 011-896-2202 E-mail dr-edu-satutoku@tokushukai.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (札幌) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

※連携施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして列挙すること

10. 連携施設	
連携施設名	医療法人徳洲会 岸和田徳洲会病院
所在地	住所 〒596-8522 大阪府岸和田市加守町 4-27-1 電話 072-445-9795 FAX 072-445-9791 E-mail kishiwada-kenshu@tokushukai.jp
連携施設担当者氏名	武島 誠
連携施設担当者 部署・役職	総務課・主任
事務担当者氏名	武島 誠
連絡担当者連絡先	住所 〒596-8522 大阪府岸和田市加守町 4-27-1 電話 072-445-9795 FAX 072-445-9791

	E-mail kishiwada-kenshu@tokushukai.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 泉州 ） 都道府県の定めるへき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

※連携施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして列挙すること

総合診療専門研修 I

総合診療専門研修 I の施設一覧

都道府県コード	医療機関コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別
46	32 1137 6	<input checked="" type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	医療法人沖繩徳洲会 与論徳洲会病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
46	10 1113 3	<input checked="" type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	社会医療法人鹿児島愛心会 山川病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地		<input type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地		<input type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携

総合診療専門研修 I を行う施設ごとの詳細

研修施設名	医療法人沖繩徳洲会 与論徳洲会病院		
診療科名	（ 総合診療 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ 81 ）床 診療科病床数（ 81 ）床		
総合診療専門研修 I における研修期間	（ 6 ）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input checked="" type="checkbox"/> 都道府県の定めるへき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（)		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	久志 安範	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
研修の内容 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか（) <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない			

経験を補完できない理由（ 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 （ ）
■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（ 365日24時間体制で診療を行っている。 ）
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（ 島内唯一の病院として、地域に密着した医療を継続的に提供している。 ）
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（ 急性期から慢性期、在宅医療（看取り）まで幅広く担当している。 ）
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（ 島外の医療機関や島内の介護・福祉施設と連携している。 ）
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（ 島民約5,300人で家族構成が把握しやすい。電子カルテに顔写真が載っている。 ）
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（ 月2回前世帝に配布される町報に特別診療の案内を入れている。 ）
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（ 患者の急変時 2名/週 ）
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））
■のべ外来患者数 400名以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）
■のべ訪問診療数 20件以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）
研修中に定期的に行う教育
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ 皮膚科・精神科等特別診療医師による勉強会 ） 他の施設で行う教育・研修機会 （ 与論町乳児健診・小児科医師同行研修2ヶ月に1回 ）
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数（ 2 ） プログラム名（ 吹田徳洲会病院総合診療専門研修プログラム ） プログラム名（ 椋原総合病院総合診療専門研修プログラム ） プログラム名（ ）

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

総合診療専門研修Iを行う施設ごとの詳細

研修施設名	社会医療法人鹿児島愛心会 山川病院
診療科名	（ 総合診療科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	□診療所 ■病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ 89 ）床 診療科病床数（ 89 ）床
総合診療専門研修Iにおける研修期間	（ 6 ）カ月
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし 常勤指導医なしの場合 ■ 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（ ）
研修期間の分割	■なし □あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）

常勤指導医氏名 1	野口 修二	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
<p>■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど</p> <p>■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事</p> <p>■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加</p>			
施設要件			
後期高齢者診療			
■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている			
学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ）			
■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている			
□学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する			
□学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する			
具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか（)			
□学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない			
経験を補完できない理由（)			
学童期以下の患者の診療を経験するための工夫			
（ 開間クリニックにて月 2 回程度可、耳鼻科として全患者の 10%程度が学童。)			
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている			
具体的な体制と方略（ 在宅療養支援病院としての訪問患者の 24 時間対応体制。)			
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する			
具体的な体制と方略（ 外来診療において、慢性疾患患者の継続的ケアを行う。)			
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当			
具体的な体制と方略（ 障害者病棟から一般急性期病棟への流れ、疼痛管理の患者の受け持ち、人間ドックや検診業務。)			
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する			
具体的な体制と方略（ 近隣に連携介護施設複数あり、同一法人の居宅支援事業所等とも積極的に連携。)			
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する			
具体的な状況（ 地方都市で地域密着型であることから、祖父母、親、子、孫と家族全員での診療も珍しくない。)			
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する			
具体的な内容と方法（ 月 2 回程度実施の地域における院外医療講演への参加。)			
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している			
それぞれの概ねの頻度（ 在宅療養支援病院としての訪問患者の 24 時間対応体制。)			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■のべ外来患者数 400 名以上／月			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（)			
■のべ訪問診療数 20 件以上／月			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（)			
研修中に定期的に行う教育			
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会			
（ 医療安全管理研修会、感染症研修会、褥瘡勉強会、医療機器管理勉強会、医薬品管理勉強会、病棟カンファレンス週 1 回等)			
他の施設で行う教育・研修機会			
（ 近隣の県立病院での緩和ケア研修会 2 日間の日程で参加。)			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 (2)			
プログラム名 (大隅鹿屋病院総合診療専門研修プログラム)			
プログラム名 (鹿児島徳洲会病院総合診療専門研修プログラム)			
プログラム名 ()			

※研修施設が 2 箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー＆ペーストして記載すること

総合診療専門研修Ⅱ

総合診療専門研修Ⅱの施設一覧

都道府県 コード	医療機関 コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別
04	55 1050 2	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院	<input checked="" type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地		<input type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地		<input type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地		<input type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携

総合診療専門研修Ⅱを行う施設ごとの詳細

研修施設名	医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院		
診療科名	(総合診療) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数 (315) 床 診療科病床数 (20) 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(6) カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	佐野 憲	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2	門間 文行	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3	福本 優作	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 4	吉田 秀一	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 5	関野 美仁	指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
研修の内容			
<input checked="" type="checkbox"/> 病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
施設要件			
<input checked="" type="checkbox"/> 一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する <input checked="" type="checkbox"/> 救急医療を提供している			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること			
<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者(特に虚弱)ケア 具体的な体制と方略 (高齢者医療を中心とした入院・在宅の研修が可能。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 (複数の疾患や健康問題を抱える患者の診療を経験する。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略 (コンサルト等、専門医との連携を取ることが出来る体制がある。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略 (患者への病状の安定のための治療、MSW を通じて退院後の生活支援や家族・介護者への支援等を行う。)			

<p>■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（ 家族背景を考慮し、主治医へ症状のコントロールや緩和ケアに関する提案を行う。 ）</p>
<p>■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（ 地域連携室・MSW の協力の下、近隣医療機関との連携を図り、当院在宅診療の有無を検討する。 ）</p>
<p>■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（ 訪問看護との連携で、救急時は救急外来を受診し、入院の判断をする。 ）</p>
<p>外来診療：以下の診療全てを行っていること</p>
<p>■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（ 一般外来（午前）以外の時間すべて対応。 ）</p>
<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（ 外来初診患者は臓器別ではない診療を行っている。 ）</p>
<p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（ 外来診療の約 6 割が頻度の高い症候や疾患の患者である。 ）</p>
<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（ 外来患者に関するカンファレンス：週 1 回、症例検討会：月 2 回行い、臨床推論・EBM を検討している。 ）</p>
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（ 院内の各科専門医と連携し、包括的なケアを行う。 ）</p>
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（ 診断困難な患者の精査を外来・病棟にて多く診療している。 ）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■当該診療科におけるのべ外来患者数 200 名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>■当該診療科における入院患者総数 20 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ 単科もしくは他科を含めた合同カンファレンス、GPC、医療倫理・感染対策に関する講習会 等 ） 他の施設で行う教育・研修機会 （ グループ内の合同勉強会 等 ）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 （ 0 ） プログラム名（ ） プログラム名（ ） プログラム名（ ）</p>

※研修施設が 2 箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー＆ペーストして記載すること

<p>領域別研修：内科</p>			
<p>研修施設名</p>	<p>医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院</p>	<p>都道府県コード 04</p>	<p>医療機関コード 55 1050 2</p>
<p>領域別研修（内科）における研修期間</p>		<p>（ 12 ）カ月</p>	
<p>指導医氏名</p>	<p>福澤 正光</p>		
<p>有する認定医・専門医資格 <small>※内科に関するもの</small></p>	<p>日本内科学会総合内科専門医・指導医・認定内科医 日本糖尿病学会専門医</p>		
<p>要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>			
<p>研修の内容</p>			
<p>■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する</p>			
<p>施設要件</p>			
<p>■内科専門研修プログラムに参加している ■基幹施設 ■連携施設 □特別連携施設 ■内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる</p>			
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>			

■当該診療科における入院患者総数 40件以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数 (0) プログラム名 () プログラム名 () プログラム名 ()

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

領域別研修：小児科			
研修施設名	医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院	都道府県コード	01 医療機関コード 05 1400 7
領域別研修（小児科）における研修期間	(3) カ月		
指導医氏名	岡 敏明	有する専門医資格 (日本小児科学会小児科専門医・指導医) ※小児科に関するもの	
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ			
施設要件			
■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■小児科常勤医がいる。 (5) 名			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ外来患者数 400名以上/月			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 (4)			
プログラム名 (札幌徳洲会病院 総合診療科専門研修プログラム)			
プログラム名 (北海道家庭医療学センター総合診療専門医コース)			
プログラム名 (豊生会地域協働家庭医養成プログラム)			
プログラム名 (共愛会病院総合診療医プログラム)			

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

※小児科研修をカリキュラム制での実施を希望する場合は、その条件(2ページ「4 概要 D. ローテーションのスケジュールと期間」参照)を確認したうえで、具体的にどのような研修を行うのか、別途説明した文書を添付してください。(A4で1枚程度、書式自由) 文書には、プログラム制では実施できない合理的な理由と、プログラム制と同等の研修経験・指導の質を担保するための工夫に関する記載も含めるようにしてください。

領域別研修：救急科			
研修施設名	医療法人徳洲会 岸和田徳洲会病院	都道府県コード	27 医療機関コード 11 0404 8
指導医氏名	鍛冶 有登	有する専門医資格 (救急指導医)	専従する部署 (救急部)
研修期間	(3) カ月		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する			

施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
□救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に1000件以上）			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000件以上／年			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ 5 ）			
プログラム名（ 松原徳洲会病院総合診療後期研修プログラム ）			
プログラム名（ 野崎徳洲会病院総合診療専門研修プログラム ）			
プログラム名（ 吹田徳洲会病院総合診療専門研修プログラム ）			
プログラム名（ 神戸徳洲会病院総合診療専門研修プログラム ）			
プログラム名（ AMAMI 総合診療”手あて”プログラム ）			

※研修施設が2箇所にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること
 ※救急科研修をカリキュラム制での実施を希望する場合は、その条件（2ページ「4 概要 D. ローテーションのスケジュールと期間」参照）を確認したうえで、具体的にどのような研修を行うのか、別途説明した文書を添付してください。（A4で1枚程度、書式自由）文書には、プログラム制では実施できない合理的な理由と、プログラム制と同等の研修経験・指導の質を担保するための工夫に関する記載も含めるようにしてください。

その他の領域別診療科

領域別研修： 科			
研修施設名		都道府県コード	医療機関コード
指導医氏名		有する専門医資格（ ）	専従する部署（ ）
□研修期間（ ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
□ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
□（ ）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
□（ ）科常勤医がいる。（ ）名			

※その他の診療科が2箇所にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

その他の研修施設（例：臨床疫学などの社会医学の研修や保健・介護・福祉関連の施設等での研修）

領域・分野：			
研修施設名			
指導にあたる医師名		有する資格（ ）	専従する部署（ ）
□研修期間（ ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
□ 総合診療専門研修のプログラムの理念と合致している			
□ 総合診療専門研修プログラムのカリキュラム内にある研修目標と関連している （具体的な関連性： ）			
指導体制			
□ 研修期間中、該当領域・分野の指導にあたる医師から、適切な指導やサポートを得られる			
□ 研修終了時点で、総合診療専門研修プログラムの関連する研修目標に対応した評価を行うことができる			

※研修施設が2箇所にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること